

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900529		
法人名	社会福祉法人みずき会		
事業所名	グループホームアスカみずきⅡ		
所在地	千葉県船橋市飯山満町1-206		
自己評価作成日	令和6年3月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://mizuki-asuka.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	275-0001 千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	書面調査		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

みずき会理念にある最高の職場環境の構築・サービスプロフィットチェーン経営を掲げ、スタッフが働きたいと思う環境作り、働きやすい環境を作り上げ、ES(従業員の会社に対する満足度)を向上させ、ESが向上することで、CS(顧客満足度)向上に繋げ、入居者の皆さまの生活の質の向上、そして介護の質の向上に繋がります。グループホームに配置義務はないが、当ホームでは常勤の看護師を配置している事で、主治医である訪問診療医と連携を密にし、入居者の皆さまの日々の健康管理維持に努めている。また、医療面でもより柔軟な対応をする事が出来るように訪問看護ステーションとも連携を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当施設は隣接するアスカみずきⅠと同様に、サービスプロフィットチェーンを採用し、従業員満足度や顧客満足度、収益性の向上を通じてサービスの質の向上を目指している。職員間の上下横のコミュニケーションを積極的に図り、管理者が意見や要望を聞く姿勢を示すことで連携を強化し、利用者に対する質の高い支援を実現している。また、地域行事や防災・防犯活動への参加を重視し、地域と医療との連携を強く意識している点も特筆される。看護師が常駐することで協力医療機関との連携が円滑となり、家族に安心感を与える体制が整備されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者様の質の向上につなげるために気付きを話し合う。ユニット会議の中で理念に触れ、ご利用者様同士の基本となる対応について共通の理解をしている。	職員間の連携を強化することで、利用者にあった支援を行う体制を構築している。プリント配布や説明を通じて理念を深く浸透させる取り組みや、介助の工夫による改善を実践している。日々の気づきを基に支援の質向上を追求し、摂取量向上や食べ残し減少といった具体的な成果を達成している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい	外出中、近隣の方とあいさつを交わすなどの交流を持つ。近隣の中古車販売店の従業員の方と入居者の散歩の際、挨拶をするなどコミュニケーションを図っている。自治会の回覧板をお届の際に、近況を教えてくださいたりしている。	事業所は日々の活動を通じて地域との結びつきを深めている。散歩中の挨拶や会話を通じ、住民との信頼関係を構築し、互いに支え合う関係を育てている。また、自治会活動を通じて地域の情報を把握し、不審なことへの注意を心掛けるなど、安心・安全を意識した行動を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践を再検討し更新している。ホームページに日常の状況やレクリエーションの様子を写真掲載し、事業所内での入居者の様子を発信している。調理や各季節のイベントに参加される写真から認知症の方でも援助を受けながら生活していける		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実践、再検討、評価を定期的に話し合う。	今年度、運営推進会議は書面から電話聞き取りを含む集合形式へと移行し、7回の開催が実現している。家族代表や地域代表、職員が参加し、施設内行事や職員研修、利用者対応の困難事例など多岐にわたるテーマが議論された。感染状況や家族の思いも取り上げられ、意見交換が活発に行われている。これにより、多方面の視点が取り入れられ、質の高い運営が推進されている状況である。	外部評価緩和措置では、運営推進会議の構成メンバーが利用者、家族、地域住民、市町村職員等からバランスよく選ばれることが求められる。幅広い検討が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談や報告、意見を聞き、共有できるようにしている。不明な点は確認しながら、また、問題発生につながりそうな場合は事前に相談をし、対処法を検討している。	介護事故発生時には指導監査課への報告を文書と口頭で行い、対応している。健康課とは、コロナや带状疱疹、インフルエンザ摂取に関する相談を実施し、連携を強化している。船橋社会福祉協議会高齢者権利擁護センターとは、財産引き渡しの立会いや代理人の相談に対応しており、地域包括支援センターとは施設の状況報告や在宅高齢者の生活状況・入所相談などで密接に連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	判断に迷うことがあれば確認し拘束のないケアにしている。施設内研修では、定期的に身体拘束廃止に向けての取り組みについて学び、絵や文字を用いて理解を深めている。また職員同士が業務中に不適切と思われる言動について疑問を持ち、上司報告が出来るようになってきている。	車いす利用者への支援では身体拘束を避けるため、ハンドル部分のブレーキロックを使用せず左右のブレーキ操作を徹底している。また、施設内研修を隣接施設と合同で実施し、身体拘束の意味や必要性を問う学びを深めている。写真やイラストを活用し理解を促進する工夫も行い、支援の質向上を目指した取り組みが進んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	何が良くて何がダメなのかを話し合い、ご利用者様に寄り添った介助が出来るよう努めた。施設内研修による高齢者虐待防止についての知識を深めている。また実務においてユニット会議などで虐待が疑わしい状況を見たり聞いたりした場合は身体拘束と同様に上司報告をすることとなっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者様の困りごと、要望を相談しより安心して生活できるよう努めた。権利擁護団体、ぱれっとと連絡を取り合い、成年後見を選出して頂く機会について話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問に対し、何度でもお答えし、経過報告などもし不安解消に努めた。対面で重要事項説明書、契約書を用いた口頭による説明をしている。また説明後には必ず不明点の有無について確認しながらすすめている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望に対し、介護の観点から安全に介助が出来るよう工夫し経過報告している。	利用者や家族からの意見を運営に反映し、歩行の維持については本人のペースに合わせた手引き支援を実施している。定期的な外出希望に対しては健康チェックや服薬調整、季節に応じた外出着の選択などの工夫を行い、快適な外出を提供している。さらに、失禁対策として定期的なトイレ誘導を徹底し、排泄の維持を図る取り組みが継続されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者へ相談や報告をし、その内容を加味し、反映している。	会議では欠席職員から事前に意見を聞き、出席者全員が発言できる環境を整え幅広い意見を反映している。職場内の上下横のコミュニケーションを活性化し、意見や要望を「待つのではなく声をかける」実践を進めている。職員の会話から導き出された具体的な改善提案も積極的に運営に取り入れ、現場の課題解決へとつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1人1人の特性を理解し、わかりやすく説明をし、心配事、困りごとが無いよう働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ベテラン職員と新人職員とで対応の差が無いよう、補助に入り、安全に介助が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	経験者から対応の意見を聞き出し、ヒントを得て質の向上に役立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションをとり、情報を引き出し共有する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅で過ごしていたときと変わりすぎない生活ができるよう努める。不安を取り除けるよう報告する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護職員が介入し、ご家族様やご本人様が必要としているケアが出来ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションをとり、団体生活に慣れるよう努めながら、ご本人様の要望もかなえるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	直接の面会、リモート面会、写真を送るなどご家族様を近くに感じれるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	談笑などで昔の話や思い出話に耳を傾け、話すことによる心の安定に努める。	コロナ緩和措置により面会の制限が緩和され、孫を伴った訪問や感染対策を維持しつつ写真撮影によるスキンシップが可能となっている。さらに、家族との広い公園や植物園への外出や、自宅で飼っていた犬を面会時に連れてくる取り組みにより、利用者の喜びや馴染みの関係の継続が支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が一人一人に気を配り、孤独にならないように努める。職員が間に入り、ご利用者様同士のコミュニケーションを図る。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも耳を傾けるという姿勢を見せ、利用が終了したからといって断ち切らない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向に沿えるようご本人様の出来る方法を検討し、実践に努める。	インテーク時のアセスメントからの情報により利用者の思いや意向を尊重し、出来ることは時間をかけてでも見守り支援を行っている。会話が難しい利用者には二者択一で選択を促し、表情から気持ちを読み取る工夫も行い、生き生きした表情を引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活習慣が変わらないよう情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で状態を共有し、過ごし方に工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に基づき、統一感のあるケアに努める。	介護計画は利用者の体調や生活背景、家族との関係を踏まえ尊厳を守り作成している。歩行機能や自立支援を重視し、排泄パターンに応じたトイレ誘導にも反映している。リスク軽減のため医師と連携し向精神薬の中止などの対応も行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録だけでなく、連絡帳なども利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにとらわれすぎず、柔軟に対応するよう努めた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	洗濯や掃除など一緒にできることをし、自身で出来ることを奪わないようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	小さな気づきもすぐに報告し、見逃すことの内容に努めた。	内科は全利用者が協力医療機関を受診し、歯科は1名が希望により以前からの医師を継続している。皮膚科や整形外科、精神科など外部受診にも対応し、必要に応じ診療情報提供書や看護サマリーを提示する。看護師が日中常駐し、健康観察や主治医、受診先との連携を実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	見た目だけの変化だけでなくコミュニケーションでの発言でも変化に気づくよう努めた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院からの情報で退院後のケアについて、いくつものケアパターンの検討をし、受け入れの準備に努めた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期でもご本人らしくいられることに努めた。	入居時に重度化や終末期の対応について家族へ説明し、意向を確認して同意を得ている。看取り研修を施設看護師が実施し、身体の変化について周知している。状態悪化時も医師と連携して家族に説明し、支援方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練だけでなく、プリントなどでも振りかえられるようにし、いつでも適切な対応ができるよう努めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を定期的実施し、どう行動すればよいかのシミュレーションをした。	隣接するGHアスカみずき I と合同で、年2回火災を想定して夜間想定と消防署立会いによる避難・通報・消火訓練を実施している。地域住民にも回覧板や地域の掲示板を通じて周知を行い、防災意識の向上に努めている。食料・飲料等は7日分備蓄し、その他災害時に必要な備品類を備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室で本人が聞けるよう努めている。	利用者の尊厳と権利を守るため、居室誘導によるプライバシー配慮や敬語使用、自己決定を促しつつ選択肢提示を徹底している。入浴時はバスタオル使用で羞恥心の軽減に努め、トイレ利用時も可能な限りドアを閉めるなど細やかな配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションの中からヒントを得て、ご本人様が望んでいることを実践できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様ファーストになるよう職員同士で連携している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感やコーディネートもさりげなく、ちぐはぐにならないよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	見守りで気付いたことを検討し、食事形態だけでなく、箸や食器にも気を配っている。	食事を楽しめるよう、利用者に調理補助を依頼し、季節行事食やランチョンマット使用で食卓を華やかに演出している。食器は白色で視認性に配慮し、浅い形状を選択している。誕生日会では手作りケーキと写真で思い出を共有し、家族へも提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の偏りが無いよう、配膳の配置を変更したり声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	仕上げ磨きをするなど不快感が残らないよう努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人のパターンを把握し、声掛けを行う。	排泄チェック表に基づき個別の排泄パターンを把握し、適切なタイミングで声掛けと誘導を行っている。立位支援によりリハビリパンツから布パンツへ段階的に移行するなど、自立支援を促進している。キョロキョロ、ソワソワなどの行動観察によるトイレ誘導など早期対応も実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や散歩などの軽い運動に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体機能によりシャワー浴のご利用者様でも、バスタオルを使用し浴槽で暖まれるよう努めている。	週2回の入浴を基本としつつ、希望に応じて随時入浴できる体制を整えている。生活歴を踏まえた入浴時間の調整や、体調不良時の全身清拭や陰部洗浄、ドライシャンプー、足浴等への対応、入浴剤使用による香りの工夫など、入浴を楽しむ支援を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温にも気を付け、枕の高さ、体勢にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に内服できているか見守りをしている。症状の変化に気づいたときは速やかに報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常でしていた洗濯や調理も一緒に出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い日に散歩や中庭の花を見に行ったりしている。	駐車場の花壇をを眺めながらの外気浴や、10分程度の敷地内散歩を職員付き添いのもと実施している。現在、外出支援は主に家族に依頼し、家族と受診に行ったり外食を楽しんでいる。地域の神社への初詣や季節ごとの花見散歩などを職員同行で行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失にも気を配り、希望に沿うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リモート面会を利用し、声だけでなく顔がみれるようにも務めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち、感染予防にも努めている。	夜間に掃き掃除やモップ掛け、手すり・トイレの消毒を実施し、汚れがあれば随時対応している。リビングでは風船パレーや塗り絵、編み物、工作などを行い、季節の飾りや作品等を壁に貼ることで四季を味わってもらい、居心地のよい空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その都度席を移動したり、自由に過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真なども見えるところへ飾り、必要であれば配置換えもしている。	各居室にはエアコンや電動ベッド、たんす、クローゼット等が備えられているが、利用者は使い慣れた私物を持ち込み居心地のよい空間を整えている。居室内では、家族からの手紙やアルバムを見たり、テレビを楽しむなど自分らしい時間を過ごせる環境が整備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員間で情報を共有し、1人1人にあつた対応をしている。気づきがあれば速やかに共有する。		